



EBENEZER
OPERATION EXODUS
エベネゼル・出エジプト作戦

アリヤーに対する 神の御心

それゆえ言え。『神である主はこう仰せられる。
わたしはあなたがたを、国々の民のうちから集
め、あなたがたが散らされていた国々からあ
なたがたを連れ戻し、イスラエルの地をあな
たがたに与える。』（エゼキエル書11章17節）

エベネゼル緊急基金・ユダヤ人の帰還を助けるクリスチャンの団体

アリヤーに対する 神のみこころ

国際



スティーブ・ライトル
STEVE LIGHTLE
国際スピーカー & 著者

私達は神のみこころについて多くを知っています。なぜなら、多くの聖書の箇所、神ご自身がみこころを語ってくださっているからです。そして、アリヤーに関しては、多くの聖書箇所、ユダヤ人がイスラエルへ帰還することについて語られています。

私のイスラエルとの関わりは、1974年に、神様がご自身の恵みによって、旧ソ連の崩壊とユダヤ人達が飛行機や船に乗ってイスラエルへ帰還するという幻を見せていただいたことから始まりました。その後、主に導かれて、私はその年旧ソ連に行き、ユダヤ人達に彼らが出エジプトすることについて語りました。

「見よ。わたしは、わたしの怒りと、憤りと、激怒とをもって散らしたすべての国々から彼らを集め、この所に帰らせ、安らかに住まわせる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。わたしは、いつもわたしを恐れさせるため、彼らと彼らの後の子らの幸福のために、彼らに一つの心と一つの道を与え、わたしが彼らから離れず、彼らを幸福にするため、彼らととこしえの契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないようにわたしに対する恐れを彼らの心に与える。わたしは彼ら

を幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」まことに、主はこう仰せられる。「わたしがこの大きなわざをみな、この民にもたらしように、わたしが彼らに語っている幸福もみな、わたしが彼らにもたらす。」 エレミヤ書32:37-42

この6節の中で、11回に渡って神様はアリヤーについてのみこころを宣言しています。神様はそのことを、「心を尽くして思いを尽くして」行われるのです。聖書の中でも、神様が何かを、「心を尽くして思いを尽くして」行われると書いてあるのは、この箇所だけです。そして、その何かのアリヤーなのです。これはとても深い意味を持つことなのです。

1982年に、奇跡的な方法で、私はエルサレムで、グスタフ・シェラー氏に出会いました。1991年1月にエルサレムで行われた国際祈りの大会において、神様はグスタフに、エベネゼル出エジプト作戦を始めるように語られたので、現在エベネゼルの働きが存在するのです。神の恵みによって、神様はエベネゼルを用いて、15万人以上のユダヤ人がイスラエルへ帰還する支援をさせていただきました。

写真

左：スティーブが、出エジプト作戦の初期に、イスラエルへのオリムを歓迎するところ

右：1991年1月、エルサレムにおける国際祈りの大会にて、湾岸戦争の最中、出エジプト作戦は誕生しました





昨年私は、16か国においてアリヤーについて語りました。そして、2017年は、さらに忙しくなりそうです。主は私達がさらに多くのユダヤ人のイスラエル帰還を支援するように、私達を整えておられるのを感じます。神様は、ユダヤ人の帰還のために預言的な鐘を鳴らしておられます。それは、さらに大いなる帰還であるメシヤの再臨です。(エレミヤ23:3-8)

イザヤとエレミヤとエゼキエルが語っているユダヤ人の帰還が今日起こっています。そして神様は、私達にちょうどこの時代に生きるように召してくださったのです。イスラエルがしたように、この招きを逃さないようにしましょう。「それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」(ルカ19:44) 私が祈ることは、私達の応答が次のようであることです。「異邦人の中であって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」(1ペテロ2:12)

私達ができることは三つあります。

祈る 祈る 祈ること。



祈りを通して、神様は私達に何をすべきかを語ってくださいます。エベネゼルの働きは祈りのうちに生まれました。そして、祈りによってのみ成功することができるのです。私自身について言えば、祈りを通してでなければ私は何も知ることができません。そして主の声を聞くことによって、私は導きを受け取り、何をすべきかを知ることができるのです。なぜなら、イエシュアから離れては私は何をすることもできません。(ヨハネ15:19) イエシュアは父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません。(ヨハネ5:19) そして、イエシュアは、ただ父が教えられたとおりのことを語られるのです。(ヨハネ8:28) 私達も同じでありますように!

何度も人々が私に言ったことは、神様が私に与えてくださった幻が実現して、130万人以上ものユダヤ人達が旧ソ連からイスラエルへ帰還するのを見ることができたことは祝福に違いない、ということでした。確かに私は非常に感謝しています。しかし、私がさらに祝福されているのは、ひとり子の再臨のために、私の天の父と協力することができるということです。神様はユダヤ人の帰還に対するみことばを成就しています。もしそうでなければ、異邦人には望みがないのです。しかし、神様はそれをなしておられます。神様は、「心を尽くして思いを尽くして」アリヤーをなされると約束されました。私達はどうでしょうか?



用語解説

アリヤー(Aliyah):
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):
1929年 C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):
イスラエルに帰還するユダヤ人

写真

左: スティーブがインドで語っているところ

右: 若いユダヤ人達がイスラエルへ到着したところ。

船長が約束の地に至る

ロシア極東



コンスタンチン&アリオナ
CONSTANTIN & ALYONA
ハバロフスク リーダー

写真：
セルゲイとエレナ：
ハイファ港を新しい住まい
とすることをとても喜んでい
ます

ロシアの最北東に位置するマガダンとは、恐るべき気候の最果ての町です。この地で、私達はセルゲイとその妻エレナに出会いました。彼らは、ハバロフスクまでイスラエル領事に会いにわざわざ行きましたが、彼らのアリヤーの申請が却下された時がっかりしました。

彼らは、最近結婚したばかりでした。領事の規則によれば、新婚夫婦の場合はアリヤーの申請まで結婚後1年待つ必要があります。また、セルゲイのユダヤ人であることを証明する書類が不足していました。

しかし、この夫婦は失望には屈せず、適切な書類を探し続けました。セルゲイは船長をしているので、自分が行きたい場所に行くために、必要な手続きをやりつづけることに慣れていました。だから、彼は約束の地に至るために必要なことは何でもする決意がありました。これは、他の人たちにとって見習うべきすばらしい模範でした。

障害を乗り越える支援をする中で、彼らのための祈りを要請しました。彼らがもう一度領事との面接を受けるためにハバロフスクに

行かなければならなかったのも、エベネゼルはそのための交通費や宿泊代などの支援をしました。今回は、彼らは大喜びで戻ってきました。彼らのイスラエルビザが下りたのです！そして、彼らは昨年9月末にアリヤーしました。そして、セルゲイが船長の仕事を再開することができるように、ハイファ港に住むことを計画しています。

彼らがテルアビブへの飛行機に乗っていると、あるシングルマザーとその子どもがいました。それで、彼らの荷物の超過料金をエベネゼルが支払うことにしました。すると、その支払いの場所で、私達は彼女になぜイスラエルへ行くのですか、と聞きました。すると、彼女は、ある朝目覚めた時に、自分がアリヤーしなければならないということを理解したので、準備を始めたというのです。そのようなシンプルなことであつたのです。

何という信仰の一步でしょう！彼女は、自分の両親も友人からも離れて、イスラエルへ行き新しい生活を始めることを決意したのです。このことから、神の民は、たとえ誰から何も言われていなかったとしても、神からの帰還の召しへの語りかけを聞くことができるのだとわかりました。ハレルヤ！



ディナが故郷へ帰る

2016年の中頃に、私達はイスラエルに在住する四人の姉妹から連絡を受けました。それは、ハバロフスクに住む五番目の姉妹のディナの帰還の支援を求めるものでした。

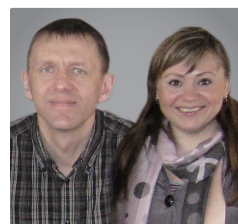


この四人の姉妹は、1990年代後半にアリヤーしましたが、ディナとその夫は当時興味を示しませんでした。そしてさらに状況を複雑にしたことに、ディナが2016年前半に心筋梗塞を患い、左半身麻痺となったのです。そのような彼女がアリヤーすることはチャレンジでしたが、神は私達とともにいてくださり、私達は、神様がディナのイスラエル帰還を望んでおられることを信じました。

ディナが寝たきりの状態だったので、彼女は飛行機で3つの座席が必要でした。エベネゼルは、彼女の医療費やイスラエル領事館への交通費なども支援することができました。

航空費用は、エベネゼルとハバロフスクにある「命の川教会」で半分ずつ支援することになり、ディナは、昨年12月にアリヤーを遂げました！そしてイスラエルに到着してすぐに、よい治療を受けることができたのです。私達は、彼女がイスラエルにおいて再び歩くことができるようになり、生活を楽しむことができるようになることをお祈りしています。

ロシア 極東



コンスタンチン&アリオナ
CONSTANTIN & ALYONA
ハバロフスク リーダー

写真

ディナ(車椅子と担架に乗っている)はイスラエルでよいケアを受けています

イスラエルで家族が集まる

ジョージとガブリエラと二人の娘がイスラエルへ帰還しました。彼らは、私達が支援した大家族の一部でした。

この夫婦の17歳の息子は、モルドバで学位を取得するために残り、2年後に合流することになっています。

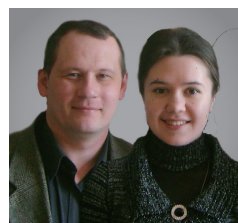
私達は、ジョージの兄と姉、そして彼らの家族がアリヤーするのを支援してきました。ジョージの甥はナーレプログラムで勉強するためにイスラエルへ行きました。その後彼の両親が彼に続いて帰還しました。ジョージにはこのようにすでに親戚がイスラエルへ帰還していました。そして、ジョージとその家族は、大きな歓迎会を楽しみに、昨年10月にイスラエルへ帰還しました。

エベネゼルは、彼らのパスポート取得や領事館面接、また書類の届け出などの支援をする

ことができ、本当に感謝しています。



モルドバ



パベル&リナ
PAVEL & LINA
モルドバリーダー

写真:

ジョージとその家族には、イスラエルでの親戚との再会が待っていました



ロシア

時々ロシアのエベネゼルチームは、生活の必需品さえも十分ない子供たちに出会うことがあります。

彼らにアリヤーすることを真剣に考えるよう励ましました。そして、アリヤーのための書類を整えたり、イスラエル領事館に面接に行くための支援をすることを約束しました。



エリヤ・バシュコーバ
ELYA VASYUKOVA
モスクワ支部リーダー

写真：
エベネゼルは、この困窮した
家族に支援と希望を与える
ことができました

それは、イワノボという町で私達が出会った9人家族でした。エベネゼルの地域代表のアナが、その家族の男の子二人が、暖かいジャケットも冬のブーツも持っていないことを知りました。その上、子供たちの一人が背骨の問題があり、特別な整形外科の枕を必要としていたのです。

父親のイゴルが失業したため、この家族には、一切収入源が途絶えてしまっていました。しかし、彼が働いていた時でさえ、彼の収入はあまりにも乏しかったため、食料さえも十分買うことができない状態でした。エベネゼルの、この家族に食料などの必需品を買うための経済支援をすることができました。

アナは、その少し後にこの家族に会いに行ってきました。そして、子供たちのうれしそうな顔を見て喜びました。子供達の一人が彼女に自分の新しい服を見せてくれました。アナは、



ウクライナ

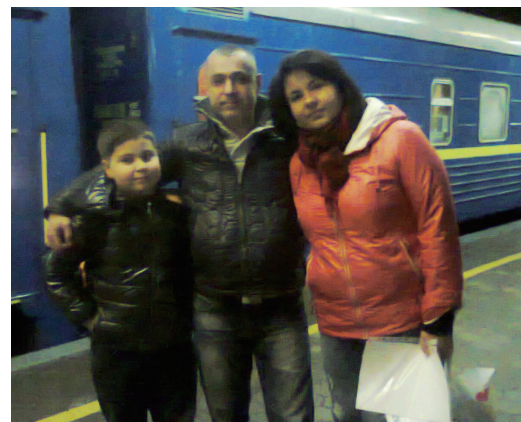
複雑な問題乗り越える



タティアナ
TATIANA
ウクライナ地域代表

バレリアの姉のイリナは、スベトロボドスクの町で両親と住んでいました。彼女の親戚はイスラエルに住んでいました。彼女は、前回イスラエルへ行って帰ってから、自分の家族もアリヤーするべきだと確信しました。

それで、彼女はその気持ちをバレリアに分かち合いました。バレリアと彼女の夫は一生懸命働いていましたが、収入はわずかで生活はとても苦しいものでした。それで、彼らもイスラエルでの新しい生活はやってみる価値があると心に決めました。そしてバレリアの母も申請する決心をしたのです。



しかし、約束の地への道のりは楽なものではありませんでした。イリナのアフリカ人の夫はいなくなってから長いですが、アリヤーするために彼の息子に許可が必要でした。また、イリナとバレリアの母親は気が変わり、家族の墓地の近くに住み続けたいと言いました。

必要な許可を得て、母親にイスラエルへ行くのは良い事だと説得した後、その二人の姉妹は一年以上かかって書類の手続きを終えて、遂に家族はアリヤーすることができたのです！

写真：
バレリヤと夫のビタリーと
息子のキリル

最初と最後の者たち

アンジェリーナはまだ20歳でしたが、アリヤーに対する強い理解と召しをもっていました。それは、彼女の曾祖父や叔父が何年も前に反ユダヤ主義の迫害にあって殺されていたことによる影響でもありました。彼女は自分の人生で決して同じようなことを体験したくはなかったのです。

彼女はとても勇気ある女性でした。なぜなら、彼女の両親、祖父母を含む親戚はみなユダヤ人でしたが、その中でだれも彼女と一緒に帰還しようとは思わなかったからです。それで彼らはノボシビルスクに在留しています。彼女は家族の中で初めてのアリヤーとなりました。私達は彼女がイスラエルで豊かに祝福されることを信じております。若い人にとって、イスラエルという約束の地で、人生の新しい出発を始めるということはすばらしいことです。

他にも私達が最近支援した夫婦は、対照的に、家族の中で最後にアリヤーする人たちでした。アンナとボリスはすでに娘と孫がイスラエルに住んでいます。ですから、アンナは長い

間アリヤーをして彼らに合流したいと願い続けてきました。しかし、ボリスはその決断をする心の準備が全くできていなかったのです。

その後何年も経ちましたが、アンナはいつの日か約束の地に住むという望みを決して捨てませんでした。彼女は会堂へ行き、アリヤーしたいという心の願いについて祈りました。彼女は地中海の海岸沿いを散歩し、木陰で休みたいと願い続けたのです。それは彼女の召しでしたが、ボリスはいつも何らかの理由を見つけては、ブレーキをかけてきたのです。

ところがある日、アンナは忠実に祈り続けてきた祈りが答えられるのを見ました。ボリスが遂に帰還することに同意したのです！彼らはその後書類を用意して、アリヤーするための申請をしました。そして、イスラエル領事からビザを取得しました。彼らが帰還の飛行機に乗る一日前に私達は彼らに会いました。20年もの間待ち望んできた日がやってきたのです。アンナは、イスラエルで家族と再会することを本当に喜んでいました。私達もともに喜びました。

ロシア



イリナ
IRINA
ハバロフスク支部
アドミニストレーター



写真：
夢が叶う
アンナとボリス



アリヤーによって一つとされる



ラウル・ルイル
RAUL ROUILLE
アルゼンチン
コーディネーター

写真：
カーリーナと子供達がアリ
ヤーの準備をしている

カーリーナとその二人の子供達は期待と夢に満たされて、イスラエルへの帰還を果たしました。二人の子供を持つ母親にとって生活は大変なものでした。ガンを患っていた二人の両親の世話を、彼らが何年か前に亡くなるまで続けなければならませんでした。そのことによって彼女の結婚も崩壊してしまいました。そして家族を離れて、夫は一人でイスラエルへ帰還したのです。

カーリーナはエベネゼルのことを知り、ブエノスアイレスにある私達のエベネゼル支部に連絡をしてきました。アルゼンチンにおける反ユダヤ主義のために、彼女はあまり私達をも信用していないようでした。しかし、私達と会って話をするうちに、彼女はだんだんと私達を信頼するようになりました。

今日、彼女と子供たちはよりよい将来以上のものを持っています。彼らが約束の地へ帰還することによって、夫と和解することができ、もう一度家族が一つとされたからです。

エベネゼルのために祈り、経済的な支援をしてくださって本当に感謝いたします。



ブラジル

助けを求める叫び



カルロス・サントス
CARLOS SANTOS
ブラジルコーディネーター

私達の娘は昨年の7月に亡くなりました。娘を失った大きな悲しみゆえに、妻のディオネと私は彼女のいない生活に適應していく助けとなるように、旅行をすることにしました。そして、私達は旅行から家に帰る途中で電話を受けました。それは、アリヤーするユダヤ人の家族の助けをしてほしいというものでした。



彼らは非常に困窮しており、パスポートを取得するためのお金もありませんでした。そこで、私達は彼らのもとを訪れ支援する決心しました。彼らは基本的な必要の他にも、慰めや導きを必要としていました。彼らの支援をしながら、イザヤ書40章1節を思い起こしました。「慰めよ。慰めよ。わたしの民を。」とあなたがたの神は仰せられる。ディオネと私は自分たちの娘を失ったことを嘆いていました。私達自身が慰めを必要としていましたが、同時にこのユダヤ人の家族はアリヤーするための支援を求めて叫んでいたのです。

私達は、このことが、神様が私達がユダヤ人のためのこの働きを続けてほしいと願っておられるということのしるしとして理解しました。私達自身の傷ついた心から力を引き出し、その困窮した家族の支援をしました。その家族のうちの一人はすでにイスラエルへ帰還しました。そして残りの二人も、すぐ後に続いて帰還する準備をしているところです。



何かが起こっています

カナダは、離散したユダヤ人人口比では世界4位です。15年前より出エジプト作戦の働きをしています。カナダからのアリヤーとウクライナのエベネゼル支援が、カナダエベネゼルの優先的な働きです。



トロント出身の正統派ユダヤ人の夫婦のダニエルとシムシオンは、2016年の春にアリヤーしました。そしてそれに続いて、彼らの友人の多くのユダヤ人達もアリヤーする計画を始めました。「何かが起こっています。何か状況が変化しているようです。」とダニエルは言っていました。

私達は、昨年の春と夏から急に働きが活発になってきました。その一方で、フランス系のユダヤ人の中には、カナダのフランス語圏であるケベックへ移住する人がいます。私達は、主が「偽りのアリヤー」を閉ざしてくださり、ご自身の民をシオンへと導いてくださるように祈っています。

2016年のアリヤーの働きで、たくさんのユダヤ人の家族が帰還しました。その中には、ヤロムとハダスとその5人の娘たちーペニンナ、ダフナ、アジェレト、リアト、モリアがいます。イスラエルから、ハダスはこのように言っていました。「私達は今までにないほど、自分たちが正しい決断をしたことを確信しています。ここが私達の故郷であり、相続地なのです。」



ディビッド・カミングス
DAVID CUMMINGS
カナダディレクター

写真：
ヤロム、ハダスとその5人の娘たちは、約束の地へ帰還することを喜んでいます。

イスラエルへの心

ミンダナオは、フィリピンの最南端の主要な島であり、2番目に大きな島です。その2000万人の人口は、山々の地域に広がっており、この肥沃で広大な谷は、質の高い果物や野菜でよく知られています。

アイジェロン牧師とその家族は、ミンダナオの南東海岸にあるダバオ市に住んでいます。彼らは近隣の地区に宣教に出て行き、イスラエルやアリヤーについて教えています。彼らの最近の「122:6作戦」の焦点は、家族に対するもので、子供たちにエルサレムの平和のために祈るように教えることもしています。(詩編122:6)

その1000キロ北部にあるルソン島というフィリピン最大の島では、ゲアリー牧師がロスバノスにある自分の教会で、アリヤーのための忠実な祈りを導いています。彼の指導の下、祈りのチームは毎月集まり、エベネゼルの地域支部から送られてくる祈りの課題に従って祈りをささげています。

しばしば私達はその祈り会の後で、ゲアリー牧師からうれしい報告を受け取ります。アリヤーの働きのためにとりなしをする忠実な祈りのパートナーを建て上げていることを、主に感謝します。



フィリピン



ピート・スタッケン
PETE STUCKEN
アジア大西洋地区

写真：
アイジェロン牧師と子供たち
「122:6作戦ミッション」にて



イスラエル

占領地におけるイスラエルの入植者移住 国際決議に対してなされた、エベネゼル

2016年12月23日金曜日の午後、ハヌカとクリスマスのちょうど始まろうとしていたころ、国連安全保障理事会は決議文2334を賛成14票、棄権1票（拒否権行使なし）で可決しました。国際エベネゼル理事会は、これに対して沈黙を守ることが正しくないと感じました。（ヤコブ4:17）そこで、私達は次のような宣言文を書きました。

私達、エベネゼル出エジプト作戦の国際理事会は、世界50か国以上にいるエベネゼルの奉仕者とボランティアとともに、2016年12月23日に可決された国連安全保障理事会決議文2334を受け入れません。この決議は、東エルサレムを含むサマリヤとユダヤの入植活動には「法的有効性を持たず、目に余る国際法侵害である」と主張しており、それは偽りであるのです。この決議はまた、ユネスコや国連総会によって採用された、歴史的にユダヤ人がエルサレムやイスラエルの中心地域と関係があるということを否定する決議に沿ったものです。このようなことをする中で、国連とその関連機関と大多数の国々が、彼らの不公平で邪悪な扱いを、法に基づく自由で民主主義の国であるイスラエルに対して、継続しているのです。

ユダヤ人の国家的故郷であるイスラエルに対する歴史的権利は、1920年4月に行われたサンレモ協定と、1922年7月に国際連盟によって満場一致で承認され、主要同盟国によって署名された委任統治領パレスチナにおいて認められたものです。このことにより、国際協定が法的にすべての国において、法的拘束力があるものとなり、国際連盟規約となりました。（第22条）これらの権利は、国連憲章の第80条において法的に守られています。

私達は、生ける唯一の神、天と地を創造された神が、アブラハム、イサク、ヤコブの神であり、イスラエルの神であり、メシヤ（イエスキリスト）なるイエシュアの父なる神であることを信じています。神はユダヤ人を選び、彼らにすべての民の中に特別な場所を与えました。そ

して神は彼らを愛しました。（申命記7:6-8）神のユダヤ人との契約を通して、神は彼らに、エルサレム全々と、ユダヤとサマリヤを含めたイスラエルの地を、彼らの約束の地としてお与えになりました。これらの契約は、他の全ての約束とともに、メシヤなるイエシュアの死と復活により確かなものとされました。（ローマ書15:8）

私達は、聖書が永遠の神のみことばであることを信じています。聖書は、神によって霊感を与えられたものであり、絶対に正しいものであり、信仰と行いの全てにおいて十分なものです。（11テモテ3:16-17、11ペテロ1:20-21）

それゆえ、私達は、ユダヤ人が、エルサレム全域、ユダヤとサマリヤを含むイスラエルに帰還し住む権利があることを、聖書に基づいて認めます。

私達の宣言文

1. 神がイスラエルを愛し、ご自身の誠実な永遠の愛を持ってユダヤ人を愛しています。（エレミヤ31:3-9）

2. 創世記12章3節にあるように、神のアブラハムとその子孫との契約が意味することは、イスラエルを祝福する民と国々は神によって祝福されうということであり、イスラエルを呪う人々と国々は、神によって呪われるということです。神はゼカリヤ12章1-9節において、エルサレムに逆らう国に対して厳しい警告を与えています。

3. 神はイスラエルと永遠の契約を結ばれ、イスラエルの地をユダヤ人に永遠の故郷である相続地としてお与えになりました。神は忠実なお方であり、ご自身の約束を永遠の守られるお方です。（創世記17:7-9、詩篇105:8-11）

植活動の停止を求める国連安保 ネゼル出エジプト作戦宣言文

4. アリヤーというのは、ユダヤ人が昔からの故郷の地であるイスラエルに帰還することを意味しますが、このアリヤーとイスラエル国の再建は、聖書にある預言が神によって成就されたことを表すものです。それゆえ、神で自身がユダヤ人に、エルサレム全域、サマリアとユダヤを含むイスラエルに住み繁栄することを約束しておられるのです。(エゼキエル36、37章、イザヤ11:11-12)

5. 完全で統一されたエルサレムは、永遠にイスラエルの首都であります。神はヨエル書3:1-2と16-21において、エルサレムやイスラエルを分裂しよう、またユダヤ人をその正当な場所から散らそうとする人々や国に対しては、厳しく警告を与えておられます。

6. 神は全ての国々と政府に、イスラエルの存在する権利を認めるように呼び掛けておられます。(ゼカリヤ2:8)

7. 私達は、イスラエルを支持します。また、イスラエルが平和のうちに存在する権利、繁栄する権利、また敵の脅威から自国の民を防衛する権利を持つことを支持します。

それゆえ私達は、地上の全ての国々とその政府が、神がイスラエルに与えた地に住むという正当な権利があり、またエルサレムが永遠にイスラエルの完全で統一された首都であるという、エルサレムに対する権利があることを支持して下さるようお願いします。

イスラエルの神、主は、忠実なお方であり、神はご自身の民を守られるお方です。しかしながら、私達は、この偽りの不当な国連安全保障理事会の決議文2334に対して沈黙していることはできません。歴史が語っているのは、最も一般的な怠惰による罪は、ある人やグループや国が、差別や圧迫や迫害を受ける時に沈黙する罪であります。それゆえ、私達はイスラエルと共に立ち、彼らがユダヤ人の将来を定め、また自国を防衛し、安全な境界線の内に住むことができる権利があることを支持します。

私達は、イスラエルを支持します。

国際エベネゼル緊急基金理事会委員一同

どうか私達と共にお祈りください：

イスラエルの岩なる神、主よ、あなたが永遠の目的を持って、ユダヤ人を選んでくださったことを感謝します。私達はエルサレムの平和のためにお祈りします。またあなたの民が国々から、あなたが彼らにお与えになった全ての地に帰還することができますようにお祈りします。

engage:Israel

SCAN QR



24 JULY – 7 AUGUST 2017

Ages 18 – 35+

TOUR PRICE
1590 US\$*

+info: www.engage-israel.org

(*EXCL. FLIGHTS & SOME LUNCHES. PRICE SUBJECT TO

リウボフを励ます

イスラエル

ナタリア
NATALIA
エルサレム支部

「それゆえ言え、『神である主はこう仰せられる。わたしはあなたがたを、国々の民のうちから集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを連れ戻し、イスラエルの地をあなたがたに与える。』」 エゼキエル11:17

ウクライナからの若い移住者のリウボフは、昨年10月の初め、ロシュ・ハシャナ(ユダヤの新年のお祝い)の前夜に、私達に支援を求めてきました。彼女の説明によると、吸収省からの政府からの支援金の支払いが、祝日の休暇のため遅れてしまい、彼女が食料を買うお金もない状態になったということでした。

教の歴史について学びました。そして、プログラムが終了した後で、彼女はアリヤーすることを決心したそうです。

その後、エルサレムのアパートでルームメート達とともに生活しながら仕事を探しました。ウクライナでの生活は非常に厳しかったため、そこでは希望も将来も見いだせなかったのです。両親を離れることとわかってはいたのですが、イスラエルへ帰還しようと決めたのでした。彼女の両親はアリヤーする計画はありませんでした。でも、彼女は彼らを恋しがっています。それで、私達にも、彼らが思いを変えて帰還することができるように祈ってくださいと言っていました。

リウボフの話を聞いてから、私達は、彼女に食料品と毛布を提供することができました。また、彼女は、ロシュ・ハシャナの直前に私達のところを訪れたので、この休暇に伝統的に、必ずりんどと一緒に食べるはちみつをプレゼントしました。私達の支援物資を受け取って、彼女はとても感謝していました。そして、帰る時には、顔にほほえみを浮かべ、とてもうれしそうにしていました。

その1か月後にリウコフに電話した時、彼女はエイラットで職を見つけたので、そこに引っ越しをしたと言っていました。私達は、彼女が困難を体験していた時に、励ましを与える機会が与えられたことを主に感謝しました。約束の地に帰還した神の民に、愛と慰めを示す働きをさせていただいていることゆえに、主に全ての栄光をおさげいたします!

写真:
左側のナタリアは今ではさらに喜ぶものとされています。



Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International



Ebenezer Operation Exodus International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部
〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。